



前川千帆 温泉宿 1940(昭和15)年頃 木版、紙

コレクション展2019-秋 特集展示

生誕130年記念

せんぱん

前川千帆の版画

MAEKAWA SENPAN

2019年9月10日[火]

~10月20日[日]

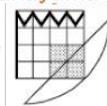
和歌山県立近代美術館

The Museum of Modern Art, Wakayama

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

tel. 073-436-8690 fax. 073-436-1337

<http://www.momaw.jp/>



大正・昭和期に活躍した版画家・漫画家前川千帆（1888～1960）の生誕130年を記念して、当館コレクションを中心にその版画作品をご紹介します。

1888（明治21）年、京都市に生まれた千帆（本名・石田重三郎）は、1907（明治40）年、関西美術院に入り、浅井忠や鹿子木孟郎に洋画を学びます。1911（明治44）年には上京して、翌年、東京パック社や読売新聞社などに勤め、ジャーナリズムの世界で活躍しました。特に、1930（昭和5）年から1933（昭和8）年まで『読売新聞』の「読売サンデー漫画」に連載した「あわてものの熊さん」で一世を風靡し、漫画家として知られることとなります。

一方、1912（大正元）年に南薫造の作品に感化を受けて版画制作にも着手します。1919（大正8）年には、日本創作版画協会の第1回展に出品し、この頃から本格的に版画家としての活動をスタートさせました。以後、日本創作版画協会の後身である日本版画協会や、帝国美術院展覧会（帝展）などの官展、春陽会展等での発表を続け、版画界における重要人物のひとりとして、日本の近代版画の発展に貢献しました。

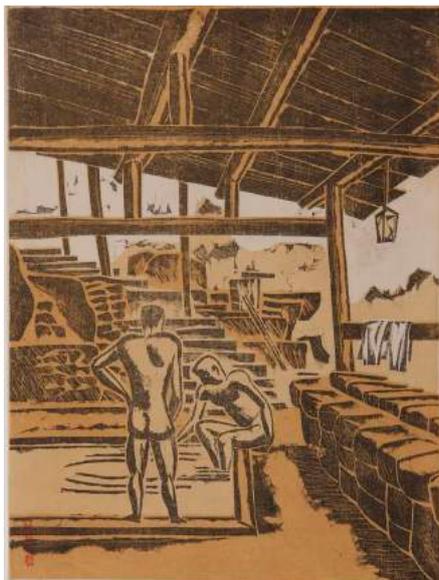
本人は自らの地位を「虚名」と謙遜しますが、謙虚な人柄そのままに表現された素朴な作風や、市井に生きる人々などを温かいまなざしで捉えた作品は、広く愛されました。戦下の非常時でも、その屈託のなさは変わることなく、彼は展覧会の挨拶の中でも、「何かとたゞ事でない今日此頃、さし迫つた心もちの中に、一脈の和らかさをおくみとり願へれば望外の幸であります」と語っています。

千帆については、1977（昭和52）年に「前川千帆名作展」（リッカー美術館）がなされたものの、その後大きく取り上げられることはありませんでした。本展覧会で改めて紹介する約70点の作品と関連資料によって、版画家・前川千帆の「和らか」な魅力をぜひご覧いただきたいと思います。

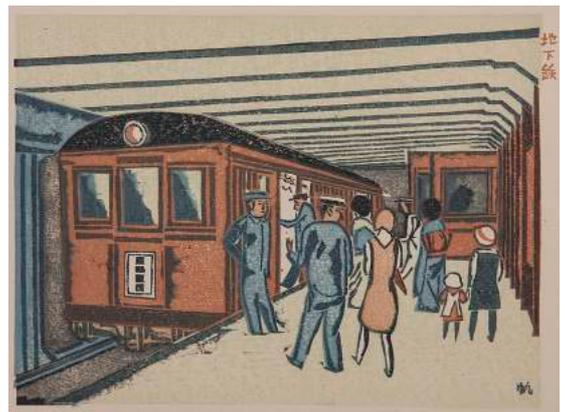
①



②



③



④

- ①『関中関本 第廿七冊 関本工程帖』1960(昭和35)年より
版画を摺る前川千帆 木版、紙 個人蔵
- ②前川千帆『風』再刊第1号「百姓」1929(昭和4)年 木版、紙
- ③前川千帆 温泉 1933(昭和8)年 石版、紙
- ④前川千帆『新東京百景』第3輯第22号「地下鉄」
1931(昭和6)年 木版、紙
*表記のないものは全て和歌山県立近代美術館蔵

会場 和歌山県立近代美術館 1階展示室

開館時間 9時30分～17時[入場は16時30分まで]

休館日 月曜日 [ただし、9月16日(月)、9月23日(月)、10月14日(月)は開館し、9月17日(火)、9月24日(火)、10月15日(火)休館]

観覧料 一般340(270)円、大学生230(180)円

消費税変更に伴い10月1日より 一般350(270)円、大学生240(180)円

()内は20名以上の団体料金

*「コレクション展2019-秋/特集展示 みやこの洗練 明治の京都画壇」と共通

*高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料

*9月28日(毎月第4土曜日)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

関連事業

学芸員によるフロアレクチャー(展示解説)

9月21日(土)、10月14日(月・祝)

いずれも14:00～15:00 展示室にて(要観覧券)

学芸員によるスライドレクチャー

「せんぱんさんのお仕事—前川千帆の人と画業—」

10月19日(土)14:00～15:00 2階ホールにて(申込不要)

同時期に開催の展覧会

コレクション展2019-秋/特集展示 みやこの洗練 明治の京都画壇 同時開催

企画展「時代の転換と美術 「大正」とその前後」 9月18日～10月20日



JR和歌山駅から：バス(2番のりば)で約10分、「県庁前」下車、徒歩2分/南海電鉄和歌山市駅から：徒歩15分・バス約10分、「県庁前」下車、徒歩2分/南海電鉄なんば駅から和歌山市駅まで特急で約一時間/JR大阪駅からJR和歌山駅まで特急で約一時間/駐車場：2時間まで無料、以下30分ごとに100円